

## 徳島県の排水機場長寿命化工事を受注

徳島県から打樋川排水機場のポンプ整備および原動機・減速機更新工事を受注

打樋川は徳島市を流れる二級河川で、同じく二級河川の勝浦川と合流する付近に打樋川排水機場があります。本機場は、1971年度から17年間にわたって行われた小規模河川改修事業の一環として1973年度に建設され、その際にNo.1と補機設備を設置、1979年度にNo.2を設置しました。供用開始から現在まで、およそ半世紀にわたって周辺地域の人命と財産を守ってきましたが、老朽化と経年劣化で機能低下や排水量低下が懸念されるようになり、早急な対策を必要としていました。

本機場の改修にあたっては、計画段階の機場診断で内視鏡によるポンプ内部の調査が実施され、主要部品が良好な状態であったことから主ポンプは工場持込整備とし、延命化することになりました。

主ポンプ駆動用のディーゼル機関は、既に部品供給ができなくなっていたことから更新となりましたが、回転速度を既設の720min<sup>-1</sup>から900min<sup>-1</sup>に高速化することで、機関本体を小型化しました。機関がコンパクトになったことで、機場内にスペースができ、有効利用可能となったほか、軽量化によって建屋躯体への負荷軽減にもなりました。同じく更新となった減速機は、水冷式から機付

ファンによる空冷式に変更となり、冷却水の使用量低減と冷却水設備の省略で、維持管理性および信頼性の向上が図られました。

現在は、2021年7月に発注されたNo.1整備工事が竣工し、翌年2月に発注されたNo.2整備工事の設計、製作が進められており、竣工後は長寿命化による排水機能確保と信頼性向上により、周辺地域の浸水被害の防止に貢献することが期待されています。



整備されたNo.1主ポンプ



更新されたディーゼル機関と減速機

ポンプ名称	No.1 主ポンプ	No.2 主ポンプ
口径・形式	SPV1800	SPV1800
台数	1台	1台
原動機容量	280 kW (ディーゼルエンジン)	280 kW (ディーゼルエンジン)